

2017年(平成29年)3月15日(水) 第33回 例会 (通算2739回)



人類に  
奉仕する  
ロータリー

RI 会長: ジョン・F・ジャーム

# Weekly Report No.2619

Rotary International District 2580

## 石垣ロータリークラブ



Rotary

石垣ロータリークラブ

地区ガバナー: 上山 昭治氏

「出会いを大切に」

ロータリーレート \$1=¥116

### 石垣ロータリークラブ55年のあゆみ

### 1989~1990年度



二十九代会長 守下 直克

副会長	大濱 正良	幹事	砥板 芳弘
副幹事	山田 義一	会計	比嘉 栄・清水宏晏
会場監督	大原 正啓	クラブ奉仕	大濱 正良
社会奉仕	大浜 長照	職業奉仕	識名 信用
国際奉仕	豊川 敏彦		

●財団法人沖縄総合教育センター菊地徳省氏による「家庭教育の大切さ」と題して市民対象に教育講演会を開催(1989.10.27)

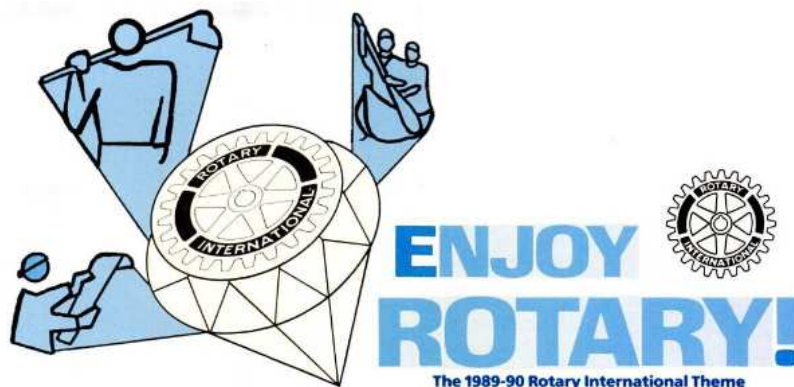
《社会情勢》 1990年

- ・新石垣空港建設費ゼロ査定
- ・野底総合リゾート開発行為を否決
- ・与那国貿易会社設立へ
- ・若者3人、死のドライブ
- ・20年ぶり保守市政誕生
- ・石垣市立図書館がオープン
- ・竹富町の農業・防災無線が開局

### 【RIテーマ】



1989~90年度 RI会長  
ヒューM.アーチャー  
(米国・デアボーンRC)



## ロータリーを楽しもう!

会 長	: 前木 繁孝	副 会 長	: 大浜 一郎	幹 事	: 前原 博一
副 幹 事	: 宮城 早人	SAA・出席	: 遠藤 正夫	情報・会報	: 宮良 薫

例会日 水曜日 12:30~13:30  
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311  
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917  
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>  
 E-mail [ishirota@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishirota@ninus.ocn.ne.jp)

# — . . . — 第2738回 2017年3月8日(水)例会報告 — . . . —

- 司会進行：遠藤 正夫
- ロータリーソング：手に手つないで・四つのテスト
- ソングリーダー：我那覇 宗広
- ゲスト：吉田 貴紀氏(八重山青年会議所理事長)  
宮城 智一氏( 〃 専務理事)
- ピジター：藤林 豊明氏(横浜鶴見北 RC)  
伊藤 卓巳氏(相模原西 RC)
- メイクアップ：小林昌道・新 賢次・森田 安高  
宮良 薫・白道 直行

## ■出席報告

会員総数 39名 出席義務会員 38名  
出席数 29名 欠席数 9名  
出席率 76. 32%(3月通算出席率 76. 32%)

## ☹️ 本日のここにこ

	小 計	累 計
BOX	¥13,000	¥196,000
コイン	¥2,908	¥114,672
合 計		¥310,672

○2 回目のメイクです。よろしくお願いします。

(伊藤 卓巳)

- 日本トランスオーシャンのおかげさまで、岡山からの桃の花を頂き、お年寄りの皆様大喜びでした。感謝！我那覇支社長ありがとうございました。(宮良 榮子)
- 長男が高校を卒業しました。(大浜 勇人)
- 長男が高校を卒業しました。(遠藤 正夫)
- 吉田理事長ありがとう御座いました。(大濱 達也)
- 吉田理事長、本日の卓話有難うございました。

(前原 博一)

○本日のゲストの JC 理事長吉田様、専務理事の宮城様、活動についてのお話しありがとうございました。

(前木 繁孝)

## 会長挨拶：前木 繁孝

本日はゲストに八重山青年会議所の吉田理事長、宮城専務理事をお迎えしての例会になります。JCの事務局と RC の事務局は同じ部屋をシェアしていますので、とても友好ムードで普段から付き合いをさせて頂いております。

私たちロータリアンの中には JC を卒業した方が多くいらっしゃいます。その皆さんは若い時からその活動を通して奉仕の精神を学び築き上げ、自身の中に確固とした奉仕の理念を定着していることに対し敬意を表する次第です。私は実は JC へのお誘いを逃げ回っていました。今考えるとなんと勿体ない年月を過ごしてきたんだろうと思います。しかし一方で奉仕の理念を持つためのスタートにはまだ遅くはなかったという思いを持ち、私自身がそして会社を包括して奉仕の理念を根底

に社員総ぐるみで今現在邁進しているところでございます。

奉仕とはなんでしょう。そしてまたロータリーとは何でしょうか。100 人ロータリアンがいたら 100 通りの答えが返ってくると思います。ロータリーは企業の理念とは違って、自発的な奉仕の団体だと言われます。そしてロータリーの奉仕の基本としては、まずは自身の企業をしっかり安定させ、その上で自分自身の余裕の時間を捧げる事、それが奉仕だと私は思います。高潔な考えのもとに集う私たちロータリアンがこれまで行った事、あるいは行わなかった事、それによってロータリーが評価され、この地域八重山に良いイメージで受け取って頂くことができます。

今月は石垣 RC の創立の月です。ロータリーとは何だろう。毎週の例会の意義や意味も含め、今一度皆様と共に確認して参りたいと思います。

本日は吉田理事長をお迎えして八重山青年会議所の皆さんの活動をお聞かせいただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

## 委員会・会員報告

### ●大濱 達也

まだ理事会決定ではありませんが、5月14日、公開例会を開催する運びとなりました。本日参加しております八重山青年会議所と共催で安里繁信氏、シンバグループの会長です。沖縄県コンベンションビューロの会長もされた方で、若い方にとっては非常にカリスマ性のある会長です。まだ決定ではないので、理事会を通してまた皆さんにお願いするかと思いますが、その時はよろしくお願ひ致します。

そして3月12日に石垣 RC は 56 周年を迎えます。その週 3月15日の例会は誕生会を開催する運びとなっております。八重山で育った他府県にも回っています有名な歌手、川満さやかさんと金城弘美さんをお呼び致しまして、卓話と演奏をお願いして、最後にハッピーバースデーをしたいと思っていますので、ぜひ多くの皆さんの参加をよろしくお願ひ致します。

そして個人ごとなんですが、皆さん致知と言う雑誌をご存知でしょうか。売っていないんですが、論語の大学から来る、知識だけでなく経験とかいろんな人との出逢いで人間が本物になるという主旨の雑誌なんですが、ロータリーの中でも宮良榮子さん、前木会長、あと病院の先生方がけっこう取られていると思います。先週は会長からロータリーの本の提供がありましたので、56 周年を記念にプログラム委員長から皆さんに贈呈致します。希望の方は帰りにお持ち帰りください。そして今、

石垣においても木鶏クラブという致知の勉強会が始まっておりまして、エーデルワイスの比屋根さんの弟が代表世話人をしておりまして、皆さんご存知の方は沖縄分区の當山社長、そして隣の紫陽花の社長、八重山港運の社長とかが発起人でやっているそうです。ぜひこれを読んで頂いて賛同する方はぜひそれにも参加して頂ければと思います。

### ●南波 正幸

先日春日部西 RC にメイキャップして頂きました。これまで何度もメイキャップして頂いているので、こちらからも4月13日にメイキャップに行こうという事になっています。前日の例会後に出発して翌日春日部西 RC の例会に参加し、1泊して帰ってくるというスケジュールになるかと思えます。参加できる方はよろしくお願い致します。

## ゲスト卓話：吉田 貴紀氏

### 一般社団法人八重山青年会議所 理事長

まず自己紹介をさせていただきます。私は22歳にホテル事業を始めたばかりの母から助けてほしいと連絡を受け、開業3カ月経った2001年7月に石垣島に帰郷しました。しかし当時の私は全く違う業界で働いており、経営者としても未経験な若者でした。そのため事業を軌道に乗せる一心で、最初の数年間は無我夢中で働いて過ごしました。青年会議所の入会を考え始めたのは2008年にアメリカの金融危機が起きた時期でした。これまでの自己流の会社経営に限界を感じ、これから間違いなく来るであろう大不況の波を生き残るために、もっと私自身が経営者として成長し、事業を発展させたいとの強い想いと、既に友人や先輩方がこの組織で活動していたこともあり、2009年に青年会議所に入会させていただきました。この組織に入会してから約8年が経過しますが自信を持って断言することができます。これまで観光業しか知らなかった私が青年会議所の多くの役職や事業を経験し、八重山の多くの問題を気付かせて頂いたからこそ、そしてたとえ東日本大震災や経済不況下でも、しっかり会社を守る事ができたのも青年会議所で学ばせて頂いたおかげであり、私自身が経営者として成長させて頂いているのも芯に青年会議所があったからであります。畏れ多くも私と青年会議所の関係性を定義させて頂くならば、青年会議所とは大切なものを守るために、必要な成長が得られる唯一無二の団体だと思っております。信頼できる仲間と共に各々が自分の足りないか所と常に謙虚な姿勢で互いに切磋琢磨し、明るい豊かなまちづくりの崇高な理念の下に、しっかりと大地に根を下ろした中で、何事にも常に物事の本質を見極め、JC運動を通じて共に力を合わせ成長す

る心構えがとても大切なことだと思います。

八重山青年会議所の歴史を紐解くと56年前にさかのぼります。1962年32名の志を同じくした青年たちの手によって、八重山青年会議所の運動が始まりました。それ以来、常に先輩方は愛する郷土を私たちに残すために、今よりも明るい豊かな社会を築き上げるために尽力してこられました。先輩方の時代を超えた継続したJC運動があったからこそ、八重山青年会議所は地域から必要とされてきました。だからこそ井戸を掘って頂いた先輩方の功績に感謝をし、責任世代の青年として後世に残して行かなければならないと考えます。

本年度八重山青年会議所は「青雲之志を持ち、美しい八重山の未来に貢献する。」のスローガンの下で、会員に対して5つの心構えと基本理念を掲げました。1、仲間を信頼し、共に力を合わせ成長する「共助の心」。2、自己の欠点を客観的に直視し、謙虚に成長の機会へと変える「勇気の心」。3、仲間と切磋琢磨し、現実的で大地にしっかりと根差す「逞しい心」。4、何事にも常に本質を見極めようとする「探究する心」。5、異論を聞き入れる度量を持ち、成長の機会へと変える「しなやかな心」。そしてヒンズー教の言葉として、私の座右の銘を紹介いたします。「心が変われば態度が変わる。態度が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。運命が変われば人生が変わる。」人生を変えたいければ、まずは自分の心から変えるべきである。そうとするならば、基本理念の5つの心構えを青年会議所の一人ひとりが守る事によって、会員一人ひとりの人生を変えられるのではないかと思います。本年度この基本理念を掲げさせていただきました。

本年度八重山青年会議所の活動につきまして、観光資源開発委員会、青少年郷土愛育成委員会、政治経済参画委員会、人間力向上委員会、会員拡大達成委員会、総務委員会、渉外対応特別室の6つの委員会と1つの特別室を設置しました。

まずは観光資源開発の必要性について、観光という文字には光を観るという意味があります。豊かな自然環境や独自の文化を有する、ここにしかない魅力、いわばこの地にあこがれがあるからこそ毎年観光客が八重山に数多く訪れるのです。観光客が多く訪れれば島の産業に多くの経済効果をもたらします。自立型経済ではない八重山経済圏が常に外的要因に影響を受けてしまう事は致し方ないですが、たとえ震災の頃のような不況が来ても、それでも観光客が訪れたいと評価される、新しい観光資源開発に繋がる事業を推進していきたいと思えます。こちらは観光資源開発委員会が担当しております。

また、私達は子供の頃、郷土愛を持ち生活してきたでしょうか。私は違うと思えます。大人にな



り島を離れる機会が多くなってはじめて、島の事を客観的に見る事ができ、島に対して特別な意味を感じ、郷土を意識していくのだと思います。もし子供の頃からこのような郷土愛を育むことができれば、島の子どもの健全な人材育成、人間形成に大いに役立つと思います。本年度は島の子どもの郷土愛を育むために積極的に行動して参りたいと考えております。こちらは青少年郷土愛育成委員会が担当しております。

そして政治経済という言葉があります。経済政治ではなく政治が先に来る理由は経済に影響力を及ぼすからです。議会での決定により条例や法律が形作られ、私達の暮らしにまで影響力を及ぼすのです。青年経済人である私達は個々の政治思想に関係なく積極的に政治に興味を持ち、常に動向に注視する事は当然ではないでしょうか。また近年公職選挙法が改正され選挙権が18歳以上に引き下げられましたが、今後未成年者が選挙権を持ち投票するようになってまいります。私が政治に興味を持ち始めたのは保守、革新の違いを学んだことがきっかけであり、国会中継や政党間の政策の違いにも興味を持った経験から、本年度は保守革新の違いを学んでいく事業を推進していきたいと考えております。担当するのは政治経済参画委員会が行って参ります。

また、近年八重山青年会議所は多くの理事長を務められたベテラン会員が卒業され、約3年未満の会員が全体の大多数を占めるようになりました。これからの青年会議所運動を考えた時に、全会員の人間力の総合値によって、地域に影響力を与えられる組織かどうか決まるはずだと思います。しかし時代の流れの中で必要とされるリーダー像は変化しており、私たちは今、必要とされるリーダー像を明確化し、そうなる為の修練を積むことが必要です。そのためにはまず私たち会員が率先して組織の人間力を育んだ上で、地域の人間力を高める運動を本年度は展開してまいります。こちらは人間力向上委員会が担当しております。

また、会員拡大事業は古くは青年会議所の組織が設立された時から行われ、組織の発展のために継続され組織に寄与してきました。地域における青年会議所の会員が増える事は、それだけ地域に

影響力が広まるという事であり、会員拡大こそが私たちが願う地域社会への実現へとつながる近道だと思います。本年度は青年会議所の地域における人口比率を向上させるため、会員50名を目標に積極的に会員拡大に努めて参ります。こちらは会員拡大達成委員会が担当しております。

また私達の例会は様々な会議によって実施されていきます。それぞれが円滑に実施されてこそ、それぞれの効果が最大限に発揮されるのであり、その運営に支障がきたすのであれば、最大限の効果は望めません。組織の屋台骨となり組織を支える総務がいてこそ、私達の運動は推進されていくと考えております。こちらは総務委員会が担当しております。

最後に対外活動についてですが、1993年に姉妹締結された台湾の蘇澳港国際青年商會は一度会員減少に伴い、組織が休止してしまいました。しかし昨年12月にファン理事長をはじめとする情熱に燃えた蘇澳鎮の青年たちと、それを支える先輩方の協力によって、再び蘇澳の地にJC運動の火が灯りました。先輩方が築き上げてこられた縁や絆を絶やさない為に、本年度は台湾の蘇澳に赴き、積極的に有効の絆を深めて参ります。そしてこれまで交流を続けてきた稚内青年会議所と昨年の55周年記念事業の中で正式に姉妹締結調印式を執り行いました。街の人口や会員の人数も同規模の国内最北端、最南端でありますので、大いに学びの機会があると思っております。こちらでも積極的に交流し友好の絆を深めて参ります。こちらは渉外対応特別室が担当しております。

結びになりますが、本年度八重山青年会議所は「青雲之志を持ち、美しい八重山の未来に貢献する。」のスローガンの下で、この先5年そして10年先の地域経済を見据え、これまで先輩方が築き上げて来られた歴史をしっかりと継承しながら、奉仕、修練、友情のJCの三信条下で、全力で八重山の為に取り組んで参りたいと思っておりますので、どうか今後とも当会議所活動に対しまして、深いご理解とご指導ご鞭撻、そしてさらには新入会員のご紹介も合わせまして、心よりお願い申し上げます。私の卓話とさせていただきます。本日は貴重な場を与えて下さいまして誠にありがとうございました。

